

～ GREEN×EXPO 2027 で発信を目指す若者たちのアイデアをカタチに ～ 「ヨコハマ未来創造会議」 中間発表を実施しました！

YOKOHAMA
GO GREEN

横浜市は、GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）の開催を契機に、20年・30年先の社会を担う現在の大学生や企業の若手社員の若者が参加して議論し、アクションを起こすきっかけとなるプラットフォームとして、「ヨコハマ未来創造会議」を令和5年度に立ち上げました。現在、約120名の若者らが集い、環境にやさしい生活や社会を目指して横浜で実現したいテーマを探求する活動を行っています。

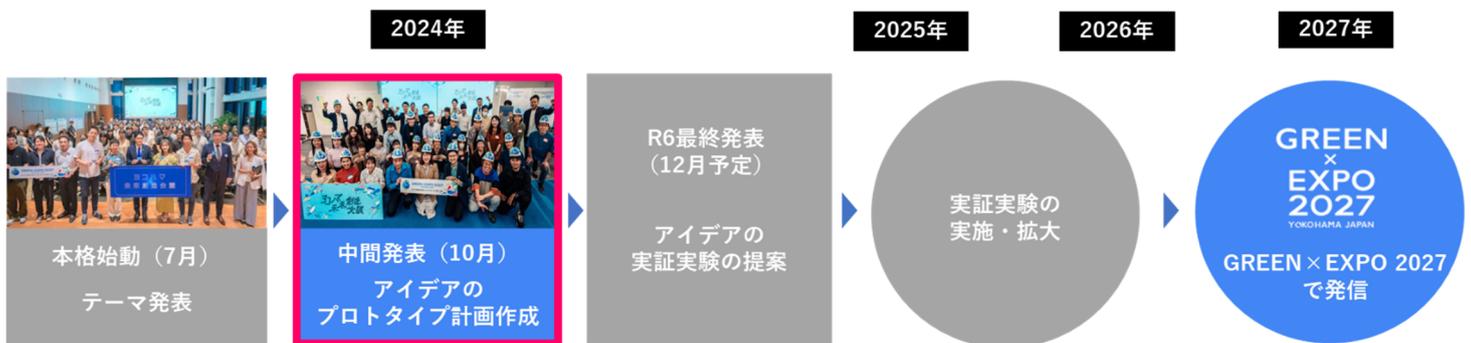
この度、若者たちが社会課題解決や新たな事業開発に取り組まれているプロフェッショナルたちからメンタリングを受けながら、自ら掲げたテーマを深掘りし、環共（※）アクションのアイデアをプロトタイプ（試作モデル）計画としてカタチにする中間発表を10月8日（火）に実施しました。

今後、若者たちは引き続きメンタリングを受けながらアイデアをブラッシュアップし、来る12月（予定）の今年度最終発表で環共アクションの実証実験提案を行う予定です。

※環共：環境と共生し市民の皆様と共につくることを意味する造語

中間発表の位置づけ・概要

若者たちはそれぞれの分科会に属し、GREEN×EXPO 2027 で成果を発信することを当面の目標として、自ら掲げたテーマの実現に向け議論を重ねています。中間発表は、その第一歩として、環共アクションのアイデアをプロトタイプ計画としてカタチにすることを目的に実施しました。



- 日時：令和6年10月8日（火） 18時～20時
- 会場：Y-PORT センター公民連携オフィス GALERIO（ガレリオ）
- 参加者：大学生、企業の若手社員等 約50名、メンター 5名
- 主なプログラム
 - ・クロストーク <メンター 守田様、横石様>
 - ・分科会別ワーク・メンタリング <分科会リーダー・メンバー>
 - ・プロトタイプ計画発表 <分科会リーダー、メンター>
 - ・参加者の自由交流



メンタリングを受ける分科会リーダー・メンバー

裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

◇クロストーク（Paper Parade, Inc. 共同代表/クリエイティブディレクター 守田様、& Co.代表取締役 横石様）

社会課題解決や新たな事業開発に取り組まれている実践者の立場から、新たな事業の立ち上げや世にないものを創るための試行錯誤とプロトタイプ作りのポイントなどについてお話をいただきました。



◇環共アクションのアイデア（プロトタイプ計画）発表

メンタリングを受け、試行錯誤しながら作成したアイデアのプロトタイプ計画を発表しました。発表後、メンターから、アイデアをブラッシュアップしていくための叱咤激励を込めたアドバイスをいただきました。



サステナブルツーリズムから考える
新たな観光要素「(仮) シン・ヨコハマ」の発掘！

- ◆「食」の視点でサステナブルな観光要素を創出し、観光を通じて持続可能な地球環境に向けた意識醸成を目指す。
- ◆日本の牛肉文化の発祥地・横浜で、生産過程の環境負荷が高い牛肉の代替肉を使用したハンバーガー等の商品を試作し、観光要素として組み込んだツーリズムの造成に取り組む。



横浜の海で植物が育てられたら？

- ◆海上における農業の可能性を追求し、農業に係る環境負荷低減や限りある水資源の有効活用を目指す。
- ◆水槽の中に横浜の海と街を再現し、疑似的な海水で耐塩性のある植物を水耕栽培する実験に取り組む。



インクルーシブな横浜のグローバルコミュニティ
から考える生物多様性を守るためのアクションとは？

- ◆文化と生物の多様性と繋がりを楽しく学ぶ機会を増やし、地域で生物多様性を身近に考え保全につなげていくことを目指す。
- ◆異なる文化を持つ多様な人と街歩きをし、楽しみながら文化と生物の多様性を主体的に発見する「ロゲイニング」企画のハンドブック作成に取り組む。



メンタルヘルス×ネイチャーポジティブで
生まれる持続可能なローカルコミュニティとは？

- ◆自然環境と人々との接点を増やし、メンタルヘルスとネイチャーポジティブへの意識醸成を目指す。
- ◆都市における自然環境を「癒し」として再定義し、「癒し」を身近に感じ生活に取り入れるきっかけとなるような記事及び冊子の作成に取り組む。



フードサーキュラーを起点に子どもの可能性を
最大化するには？～学校給食のフードロス～

- ◆学校給食におけるフードロスを削減し、環境負荷低減と家庭の食支援を目指す。
- ◆欠席者の早期把握や給食の残食量を画像で判別することなどで必要な食材量を自動計算し、ロスなく調理できるアプリの試作に取り組む。



プロトタイプ計画を発表する分科会リーダー



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



(参考) 若者たちに伴走するメンター (敬称略/令和6年10月10日時点)

各界の第一線で活躍する若手のプロフェッショナルたちが、ヨコハマ未来創造会議の活動に共感・賛同し、メンターとして参画いただけることになりました。ワークショップ等でのメンタリングを通じて、GREEN×EXPO 2027での成果発信を目指す若者たちの活動を継続的にサポートいただきます。



おだ ひろかず
小田 裕和 (株)MIMIGURI デザインストラテジスト
・千葉工業大学大学院工学研究科工学専攻博士課程修了 博士 (工学)
・「考えたり作りたくなる気持ちを孵化させる、場や道具のデザイン」をテーマに、事業開発から組織開発まで、幅広いプロジェクトのコンサルテーションやファシリテーションに取り組む。



かわい まさき
河合 将樹 (株)UNERI 代表取締役 CEO
・1995年愛知県生まれ。2020年に(株)UNERIを創業。東京・名古屋を中心に社会課題解決型スタートアップの支援を実施。過去にETICとSIFにて従事。
・2024年には業界最大級イベント「IMPACT SHIFT」を開催し、一般社団法人IMPACT SHIFTを登記。Forbes JAPAN 30 UNDER30 2024 受賞。



しながわ ゆう
品川 優 (株)An-Nahal 代表取締役社長
・2019年An-Nahalを横浜に設立し、企業のD&I推進を組織・人材開発のアプローチで支援や外国人留学生のキャリア支援や外国人起業支援に取り組む。これまで企業向けグローバル人材育成、世界銀行や国際機関との教育関連プロジェクト、NPOでの難民就労支援等多様なセクターとの協働に携わる。
・世界経済フォーラム Global Shapers、Japanese Women's Leadership Initiative フェロー、米国 Vital Voices Global Fellowship 2024



つだ よしお
津田 賀央 Route Design 合同会社 代表
・デジタルコミュニケーション領域、サービス開発やプロトタイプデザイン、UXを設計するプランナーとして活躍。
・2015年5月から長野県の富士見町へ移住し、自身のプランニング/デザイン会社Route Design 合同会社を設立。
・2023年4月には自身の出身地である横浜市にクリエイター向けコワーキングスペース「PILE -A collaborative studio」を立ち上げた。



まなべ せいじ
真鍋 誠司 横浜国立大学国際社会科学研究院 (経営学部) 教授
・博士 (経営学)、教授。専門は技術経営論、イノベーション・マネジメント論。
・神戸大学経済経営研究所を経て、2004年より横浜国立大学。
・横浜未来機構・設立発起人代表、フェロー。横浜国立大学認定ベンチャー・株式会社FineMetrics 取締役 (CSO: 最高戦略責任者)。



もりた あつし
守田 篤史 Paper Parade, Inc. 共同代表/クリエイティブディレクター
・「紙や印刷の新しい価値を生み出す」をテーマに、デジタルとフィジカルの境界を横断しながら独自の世界観を創出するデザインを提案。
・デザインと印刷加工の2つの視点からの提案を得意とし、サーキュラーの観点からプロジェクトをプロデュースするといったサステナブルな領域のデザインも提案している。



よこいし たかし
横石 崇 &Co.代表取締役
・多摩美術大学卒。2016年に&Co.を設立。ブランド開発や組織開発、社会変革を手がけるプロジェクトプロデューサー。アジア最大規模の働き方の祭典「Tokyo Work Design Week」では3万人の動員に成功。
・鎌倉のコレクティブオフィス「北条 SANCI」や渋谷区初の起業家育成機関「渋谷スタートアップ大学 (SSU)」、シェア型書店「渋谷〇〇書店」などをプロデュース。法政大学兼任講師。

お問い合わせ先

脱炭素・GREEN×EXPO 推進局 戦略企画課担当課長 黒柳 純子 Tel 045-671-4934



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月~9月 横浜・上瀬谷

